大学ソフトテニスにおけるトレーナーの現状と課題
The present state and problem on athletic trainers in collegiate soft tennis teams

1K06A0691　　金田　絢
指導教員　主査　中村千秋先生　　副査　関一誠先生

【緒言】

ソフトテニスは大会中１日で何試合もこなさなければならないスポーツであり、ハードなスポーツである。私自身、早稲田大学軟式庭球部に学生トレーナーとして所属し、選手が夏にあるインカレで、熱中症になってしまったことがあった。私は４年間の部活動で様々な大会を見てきたが、大学ソフトテニスにおいてトレーナーなどのサポートスタッフがいるチームはいなかったように思う。大学ソフトテニスでは、身体をどのようにケアしているのだろうか。そして、なぜ大学ソフトテニスにはトレーナーなどのサポートスタッフがいないのだろうか。そこで本調査では、各大学の体育会ソフトテニス部において、トレーナーの認知度、トレーナー活動への意見や要望を明確にし、今後の学生ソフトテニス界におけるトレーナーのあり方や活動方針を示すことを目的とする。

【方法】

関東大学リーグ１部・2 部のソフトテニス部に所属している男女 179 名の選手を対象に、トレーナーの認知度やソフトテニスのトレーナーに関する質問紙法によるアンケート用紙を配布し、回収した。

【結果】

トレーナーの認知度は 92%と多くの選手がトレーナーを知っていたが、現在のチームにトレーナーがいる選手は全体の 20%であった。対して、94%の選手がトレーナーはソフトテニスに必要であると回答し、選手の半数以上がトレーナーに要望するサポートはマッサージ、ストレッチ、テーピング、メンタル・トレーニングであった。また、半数以上の選手が競技中に傷病になった経験があり、最も多かった傷病は捻挫で、続いて肉離れ、熱中症、骨折、腰痛、貧血、脱水症状となった。

【考察】

トレーナーの認知度は高い数字であったが、学生ソフトテニスのトップレベルに位置している選手にもかかわらず、トレーナーを知らない者が 8%いた。そして、トレーナーを必要と感じている選手は９割以上存在したが、現在のチームにトレーナーがいると答えた人は全体の 2 割しか存在していない。このことは、大学ソフトテニス競技において、選手はトレーナーを認知し、サポートを要望しているが、普及していないことを示している。また、今回の調査で、選手が必要としているサポートは多岐にわたっていることが分かった。これから学生ソフトテニス競技およびソフトテニス界全体にトレーナーを普及していくためにも、日本ソフトテニス連盟はメディカルセミナーの開催やトレーナー育成事業などを行い、まずはトレーナーやメディカルサポートを取り入れやすい環境を作っていくべきである。

【まとめ】

ソフトテニス競技はトレーナーなどのサポートが普及していないようである。そこで本研究は、今後の学生ソフトテニス界におけるトレーナーのあり方や活動方針を示すことを目的とし、トレーナーの認知度や普及の程度、ソフトテニス競技でのトレーナー活動への意見や要望を明確にするために、アンケート調査を行った。結果、トレーナーの認知度は9割と高かったが、ソフトテニスに普及していないことを示すものであった。しかし、選手はトレーナーのサポートを必要としており、そのサポート内容は多岐にわたることが明らかとなった。今後ソフトテニス競技においてトレーナーの普及が強く望まれるが、トレーナーも多岐にわたる技能を有しておくべきである。そして、トレーナーの普及のために、日本ソフトテニス連盟は、各大学のソフトテニス部や各種医療機関、都道府県連盟などの間で連携し、トレーナーやメディカルサポート体制をつくるべきである。